ハブハブブハー

ありのままのすがたのじぶん

2年　Y・Nさん

わたしは、ハブの子どものブハーが、じぶんにどくがあることを、本とうにきらいに思っているとかんじました。なぜなら、みんなは、どくがあることでみんながこわがってあそんでくれず、ひとりぼっちになってしまっていたからです。みんなとあそべるように、いろいろなくふうをして、ルリカケスやクロウサギ、トゲネズミと、あそびたかったのでしょう。

おとなになったルリカケスたちが、じぶんたちをまもってくれたことをおぼえているのは、いままでこわがっていた、ブハーの「どく」が、じぶんたちをまもってくれて、とてもかんしゃしていたからだと、思いました。ブハーがまもってくれなかったとしたら、ルリカケスたちは、今ここにいないかもしれません。おとなになったすがたのブハーは、たいようよりまぶしくとても光って見えました。ブハーは、じぶんのどくがきらいだけど、やくにたつこともあると、おとなになったとき、きづいたと思います。

本とうのともだちを見つけるためには、ありのままのじぶんをつたえることがいちばんたいせつだと思います。なのでわたしは、ブハーはじぶんのどくは、ものをかまないと、どくはでないから、あんしんしてほしいと、つたえられたらいいと思いました。どくは「じぶんやみんなをまもることができるいいもの」と、思えるようになれば、少しでもつらくなくなると思いました。「みんなとちがう」ことは、けっしてわるいことではなく、そもそもちがう生きものだから、それぞれの「こせい」をだいじにして、「どくがあることをダメなこと」と思わないようになったらよいと思いました。ブハーは、おはなしのさいごに、じぶんのありのままのすがたを、たいせつにうけいれていて、とてもすばらしかったです。

わたしはブハーのように「○○があるからダメ」と言われて、なかまはずれにされるのは、とてもかなしいことだと思います。ブハーのように、なかまはずれにされている人がいたら、「それは『こせい』という、ありのままのじぶんなんだよ」と、つたえてあげたいと思いました。